主催団体挨拶

古賀　誠
全国道路利用者会議会長

我が国に課せられた課題の一つは「東北大震災の復興の加速」、「国民の生活の安全・安心の確保」であります。また、私共、多くの地域の皆さんが望まれる「豊かで質の高い利便性に富んだ地域社会の実現」、「我が国の経済の再生」であります。その事に欠く事の出来ない道路整備事業は、私共に課せられた大きな課題であろうと思いますが、なかなか道路整備事業、一朝一夕で成り立つものではありません。長期的な計画のもとに必要な財源の確保が不可欠であります。

先人や先達の知恵によって、かつて道路整備5カ年計画がありました。何よりも財源確保に道路特定財源というものを生み出していただいておりました。残念ながら、時の流れとはいえ、道路特定財源は平成21年に暫定税率を維持したまま廃止になっております。誠に厳しい、道路関係予算の財源確保にとっては遺憾で残念な事だと思っております。そうした環境の中にありましても、私共は皆様方と一体となって、この困難を切り開いていかねばなりません。

財源の安定した持続可能な確保のために、道路財源について今一度、国政の中枢でお働きいただいている国会議員の先生方に議論を深めていただきたいと、こういう願いを持っている事を是非一つご認識いただく事が出来れば、大変幸いだと思っております。

当面、概算要求に示されております1兆９，２５４億の財源確保に、私共は全力を挙げねばなりません。同時に、補正予算の大幅な確保、是非一つ皆さんと一緒に、この熱気溢れる大会を機に確保していきたいものだと思っております。

来賓挨拶

高市早苗
総務大臣

「なんで道路の大会に総務大臣」と思われているかもしれませんが、地方自治、消防行政を預かる立場からも、また情報通信、電波行政を所管する立場からも道路行政、非常に重要な位置付けを持っております。

今、総務省では、全国どの地域に住んでも、まず安全に生活出来る事、必要な社会サービスがきちんと受けられる事、質の高い教育が受けられる、そういう事、そしてもう一つは働く場所がある、そういう地域が全国各地にたくさん出来ていけば、本当に日本は地方からＧＤＰを押し上げられる、そういったモデルをつくる事が出来ると考えています。そういう意味で、いずれの政策、方向性を実現するためにも、道路というのは重要な社会基盤でございます。特に「命の道」という言葉を私たちは何度も繰り返して参りました。

当時「コンクリートから人へ」という大変な逆風もありましたけれども、でもコンクリートも人も、人の命を守るという事が国の究極の使命でございますから、そのためにどれほど道路整備が必要かという事も痛感を致しました。

そして、何よりも大切な財源でございます。国土交通省のほうで予算を確保していただいて、地方負担が生じる場合には、私共総務省のほうでしっかりと地方財政措置を打たせていただきます。

皆様と共に、とにかく安全な交通環境をつくる、そして地域どこもが元気になっていく、多くの方々の幸せのために、信念を持ってご一緒に取り組みを進めて参りたいと思います。本日お集まりの多くの皆様と共に、私たちも元気に発信をしていきますので、一緒に頑張って参りましょう。

来賓挨拶

山本順三
国土交通副大臣

副大臣室に座っていますと、全国各地の皆さん方の陳情を受ける日々が続いております。殆どが道路整備です。地方が、インフラ整備の充実のために道路整備を望んでいるかという事が如実に感じられます。今「地方創生」という事が言われておりますけれども、その地方創生を成功に導くか否か、これは地方のインフラ整備を最低限どのように整備出来るかどうかにかかっているんだという事を、それぞれの皆さん方の陳情をお伺いしながら、つくづくと感じているところであります。

まず我々が第一番に考えなければならない事は、東日本大震災で被災された、その地域の復興の加速化。これを全力を挙げて取り組んでいかなければならないと思います。二点目は、防災・減災の観点から我々が今、対応しなければいけない問題が山積しているわけであります。

そして今、国土交通省が一番大切にしている言葉があります。それは「ストック効果」という事です。従来は乗数効果であったりフロー効果でしたが、実は、社会資本整備の本来の効果、それはまさに今ほど申し上げたストック効果だろうというふうに思います。これからその社会資本のストック効果が最大限発揮されるように、我々も努力をして参りたいと思います。

来年度予算についての議論も始まり、補正予算もあるやに伺っております。今日お集まりの皆さん方と力を合わせて、日本の、特に地方の社会資本整備の充実のために、力を合わせ、全力を挙げてこの予算に向けての力を発揮していくべく、今日は心を固める、絆を固める日であろうというふうに思っております。

来賓挨拶

今村雅弘
衆議院国土交通委員会委員長

道路整備というものは、住民の日常生活や国家の経済活動を支え、そして、少子高齢化という労働力不足の時代を迎えて、大変重要な位置付けになっております。国際競争力におきましても、いろんな地域の活性化についても、言うまでもない事であります。通学道路の生活道路、暫定2車線区間の高速道路における交通事故への安全対策もあります。あるいは無電柱化、渋滞対応等々、安全で快適な通行空間の確保に向けて、まだまだ取り組む課題が山積しています。

また、東日本大震災の際には、支援物資の輸送や避難路として、道路が改めて命を守る役割を果しているの事が再認識をされました。

今後予想される南海トラフ巨大地震等々、大規模災害の備えとしても、大きな役割が課せられています。そのためにも、ミッシングリンクを無くす、そういった事も大きな課題になっております。

一方で、高度成長以来集中的に再整備されてきました、この交通インフラ、道路インフラは今、急速な老朽化を迎えてきておりまして、その対策も急務となっております。

今、国・地方共、大変厳しい財政状況にはありますが、地域の安全・安心や地方創生を図るために真に必要な道路を、計画的かつ重点的に整備をして、そのための予算を確保していかなければならないわけであります。

「道路整備は力強く輝かしい日本の道づくり」を合言葉にして、衆議院国土交通委員会と致しましても、皆様方の意見や採択される決議をしっかりと受け止め、今後ともご期待に沿えるよう最大限の努力を傾注して参る所存であります。

来賓挨拶

広田　一
参議院国土交通委員会委員長

3月11日の東日本大震災以降、より一層、道づくりを進めるキーワードの一つが「安全・安心」でございます。今年も常総市を始めとしまして、洪水や土砂災害などの自然災害が多発をしております。全国各地で様々な自然災害が発生をしているところでございますけれども、そういった中でも道路というものは、緊急輸送道路であるとか、いわゆる「命の道」として極めて重要な機能を有している所でございます。いつ発生してもおかしくない南海トラフ巨大地震対策や、また、首都直下地震対策、その備えとしてもですね、なんとしてもこの高速道路等のネットワーク整備・推進は、是非とも推進をしていかなければならない喫緊の課題でございます。

私も、何度も申し上げさせてもらっておりますけれども、東日本大震災の時、僅か1週間で10万人もの自衛隊員が被災地に進出する事が出来た。これはまさしく高速道路が使え、「くしの歯作戦」が実施を出来たからに他なりません。これは、当時の防衛省の教訓としても掲げているところです。こういった考え方は風化せずに、しっかりと取り組んでいかなければならないと思っております。

加えまして、道路の老朽化対策も待ったなしでございます。また、児童や学生が安心して登下校出来るような歩道や防護柵の設置など、いわゆる通学路対策も、引き続き講じていくという事も重要な課題と認識をしているところでございます。

引き続きまして、真に必要な道路予算の確保に向けて、参議院の国土交通委員会としても、しっかりと取り組んで参りたいと思っております。

挨拶

高知県知事
尾﨑正直
全国高速道路建設協議会会長

先ほど来、お話が出ておりますけれども、全国の高速道路ネットワークあっての地方創生であります。高速道路ネットワークがあって初めて商圏が開けてくる、具体的に商圏が開けてきて地域の資源が活かされる、そうなっていくのだと、そのように思います。

南海トラフ地震対策を始めとした様々な災害対策も、高速道路ネットワークを前提にする事なくして、そのための応急対策・復旧復興対策を描く事は出来ない。ありとあらゆる面において、この高速道路を始めとした道路整備は極めて重要だと、その覚悟でございます。

ミッシングリンクの早期解消に向けて、そしてまた、著しく事故率を上げている暫定2車線の早期4車線化、そして老朽化対策、これらに向けて道路予算の満額確保、全高速の会長と致しまして全力で取り組みを進めて参る覚悟でございます。

司会

福島県相馬市長
立谷秀清
道路整備促進期成同盟会全国協議会副会長

意見交換

速見雄一
島根県雲南市長

加藤憲一
神奈川県小田原市長

決議朗読

福岡県久留米市長
楢原利則
全国街路事業促進協議会代表

閉会の辞

東京都青梅市長
竹内俊夫
道路整備促進期成同盟会全国協議会会長